

一般財団法人日本心理研修センター主催 諸領域における心理支援の動向と基本課題

一般財団法人日本心理研修センターは本年4月1日に設立されました。
当センターでは心理職の資質の向上及び協働させていただく諸職種の方々の連携を視野に、基本的な課題に向けた研修会を開催いたします。

【会場】 東京家政大学板橋キャンパス JR 埼京線十条駅下車 徒歩5分

【申し込み】 各プログラム 一般財団法人日本心理研修センターホームページより <http://shinri-kenshu.sakura.ne.jp/>

※ポイント等の申請につきましてもホームページからご確認ください。

【定員】 合計 1000名 【参加費】 1講座 7,000円

【参加資格】 臨床心理士、臨床発達心理士、学校心理士、特別支援教育士、心理職実務者、守秘義務のある専門職（医療・福祉・学校・警察・防衛等）、心理学関連大学院生

【その1】 平成25年11月23日（土・祝）

プログラム第1) 精神科新診断基準「DSM-5」の特徴と心理職の課題—改めて発達障害を考える—

11:00～16:30 : 宮本 信也(筑波大学人間系)
16:30～17:00 : 質疑 (司会:松野 俊夫 日本大学)

プログラム第2) 心理支援関係における職業倫理(1)—説明と同意—

11:00～12:30 : 医学教育における説明と同意 石川 鎮清(自治医科大学医学教育センター)
13:30～15:00 : 法理念としての説明と同意 佐伯 仁志(東京大学法学部)
15:10～16:40 : 心理支援・相談関係における説明と同意 水野 修次郎(麗澤大学)
16:40～17:00 : ディスカッション (司会:松浦 慶子 法政大学)

プログラム第3) 心理学の理論と人間を支える実践の広がり—精神障害・発達障害・重複障害をめぐる基礎と応用の対話—

10:30～11:50 : 知覚の心理学から見る人間(仮題) 佐藤 隆夫(東京大学大学院)
12:50～14:10 : 人間と精神医学(仮題) 中嶋 義文(三井記念病院精神科、東京大学)
14:20～15:40 : 生活と臨床心理学(仮題) 村瀬 嘉代子(北翔大学)
15:45～16:30 : 生活する人間へのアプローチの課題 講師全員 (司会:奥村 茉莉子 日本臨床心理士会)

プログラム第4) 機能分析による認知行動療法

10:30～16:00 : 熊野 宏昭(早稲田大学)
16:00～16:30 : 質疑 (司会:未定)

【その2】 平成25年11月24日（日）

プログラム第5) 自閉症スペクトラム(ASD)への発達論的アプローチの新動向(2)

—早期発見から療育・相談・カウンセリングおよび地域支援まで—

10:00～10:05 : 主旨・講師紹介 長崎 勤(筑波大学)
10:05～11:30 : ASD の概念、歴史、診断 清水 康夫(横浜市総合リハビリテーションセンター)
11:30～12:45 : ASD 早期発見の場:乳幼児健康診査から保育所・幼稚園へ 三隅 輝見子(横浜市総合リハビリテーションセンター)
13:45～14:25 : ASD の早期療育に向けた導入プログラム 難波 紀子(よこはま港南地域療育センター)
14:25～15:10 : 保護者支援—養育上の助言とカウンセリングの複眼視— 柳生 佳代子(横浜市北部地域療育センター)
15:10～16:05 : 地域の保育所・幼稚園におけるインクルージョン支援 木村 常雄(横浜市西部地域療育センター)
16:05～17:00 : ディスカッション 講師全員&参加者(司会:清水 康夫 前掲)

プログラム第6) 子どもに対する認知行動療法—その基礎と実践—

10:30～12:00 : 子どもの認知行動療法の基礎 石川 信一(同志社大学)
13:00～14:30 : 子どもの不安に対する認知行動療法 同上
14:40～16:10 : 子どものうつに対する認知行動療法 佐藤 寛(関西大学)
16:10～16:30 : 総合討論 (司会:鶴 光代 東京福祉大学)

プログラム第7) 災害における心理支援(2)—惨事ストレスへの対応—

10:30～12:00 : 廣川 進(大正大学、海上保安庁)
13:00～14:30 : 藤代 富広(警察庁)
14:40～16:10 : 藤原 俊通(陸上自衛隊)
16:10～16:30 : ディスカッション (司会:富永 良喜 兵庫教育大学)

【共催】 一般社団法人日本臨床心理士会、一般社団法人臨床発達心理士認定運営機構、一般社団法人日本臨床発達心理士会、一般社団法人日本学校心理士会、一般財団法人特別支援教育士資格認定協会

【後援】 厚生労働省、日本行動療法学会、日本発達心理学会、日本人間性心理学会、一般社団法人日本心理臨床学会、一般社団法人東京臨床心理士会、日本発達障害ネットワーク

<企画主旨>

プログラム第1) 精神科新診断基準「DSM-5」の特徴と心理職の課題 –改めて発達障害を考える–

本年5月、米国の精神障害に関する医学診断書 DSM 第5版が登場しました。さまざまな精神障害、なかでもわが国における発達障害に関係する多くの方々、また医学とその関連領域の方々にとって、その改定の動向は多くの関心と呼んでいます。今回は、今注目されている DSM-5 についての分かりやすい解説と共にわが国での翻訳動向と課題などの情報について語っていただきます。

プログラム第2) 心理支援関係における職業倫理(1) –説明と同意–

心理支援関係において、いわゆるインフォームドコンセントへの配慮は倫理綱領にも含まれている相談関係の基本となっています。しかしながら、このことの実現についてはさまざまな課題があるのも現実です。この講座では、この問題の先達である医療における課題、法律におけるこの問題、そして相談関係における実践の問題をそれぞれの領域の専門家から提示いただき、ともに考えたいと思います。

プログラム第3) 心理学の理論と人間を支える実践の広がり–精神障害・発達障害・重複障害をめぐる基礎と応用の対話–

心理的機能へのアプローチは、生きている人間を対象として生活を支える営みに寄与します。この講座では、知覚・認知・生理心理学の視座と人間のこころと行動をみるさまざまな精神医学の視座、臨床心理学の視座、それぞれの角度から心理支援の基盤となる視点と視野を拓ける試みとして企画しました。また実際の心理臨床の営みにも言及するお話をいただきます。

プログラム第4) 機能分析による認知行動療法

認知行動療法の講座は当センター夏季研修会で「認知行動療法の適用の実際と課題」として設け、その実用性と行動変容認知変容のキーポイントを講じていただきました。受講者からはさらに展開についての講座の希望が多く寄せられたので、改めてその実際の方法に触れる内容を企画しました。

プログラム第5) 自閉症スペクトラム(ASD)への発達論的アプローチの新動向(2)

–早期発見から療育・相談・カウンセリングおよび地域支援まで–

1980年代から、ASDの発達研究・脳科学研究が活発に行われ、共同注意や情動調整、また実行機能や心の理論など、ASDの基本的な障害が明らかにされてきました。また、大規模なコホート研究(遡及的研究)から、0歳代での共同注意やショウイング(提示行為)の欠如などのASDの早期徴候も見出され、1,2歳代での早期発見も可能になってきています。早期発見されたASDに対し、早期療育・教育のエビデンスも見出されており、ASD研究・臨床の大きなトピックスの一つとなっています。

プログラム第6) 子どもに対する認知行動療法 –その基礎と実践–

認知行動療法への関心と実際の療法について習得することへの要望を受けて、大人とは異なるコミュニケーションの工夫が必要な子どもへの適用についての講座を企画しました。入門から実際の適用に関する知見に触れていただき、子どもへの対応の工夫を参加者にも考えていただく素地を提供いたします。

プログラム第7) 災害における心理支援(2) –惨事ストレスへの対応–

甚大な災害における支援はさまざまな立場の支援者によって行われます。その支援はどれも困難な心理的ストレスを伴うものと考えられます。今回は組織そのものがこうした惨事への対応を役割としているの中で、支援者の強いストレスをどのように支えるのかについて、経験に基づくお話をいただき、被災者への支援に加えて、支援者の支援を考える講座とし、最後にそれぞれの講師のディスカッションを加え、共通項と各論を整理したいと思います。